

社会生活に生きる

「読解力」の育成に向けて 前

福岡教育大学附属福岡中学校

武田 祐子

1 「読解力」を取り巻く社会的背景

OECDによるPIISA調査により、改めて「読解力」が注目されている。(注1) この背景には、社会生活において、情報を選択し吟味していく読み方がこれまで以上に必要になってきていることが挙げられる。また、コミュニケーションの手段としてパソコンや携帯電話によるメールのやりとりが加わり、短い文章や感覚的・短絡的な言葉のやりとりが増えたため、じっくり言葉と向き合い、吟味して考えを作り出すことが不足していることも無縁ではない。

これからの国語科では、「内容を正確に読む」だけでなく、「正確に読み取った内容を根拠として、新たに自分の考えを表出する」「読み取った内容や方法などを判断材料や情報として蓄え、社会生活に生かす」を身につける必要があると考える。(注2) そこで、以下のような整理を試みた。

3 単元「本の魅力を伝える広告文をつくらう」(三年)の実践

(1) 単元のねらい

本(書籍)は、生徒にとっても情報収集の身近なツールであるが、生徒の選択基準は表装などの見た目の判断によることが多い。賢い読者になるにも、本の情報(本の帯・POP)をさまざまな読みの視点から分析する力が必要である。また、学校での学習が、生活の中でこんなふうに行きわたるのだと実感する場も必要である。そのため、読者を意識した「魅力ある広告文をつくる」という学習活動を設定した。

ここでのテキストには、ショートショートを選んだ。SF・社会問題などテーマも多様であり、タイトルや「落ち」のおもしろさもある。同様に、一話完結であり、短時間で読めるという利点もあるからである。

(2) 単元の構成

1 課題設定の段階(第一次)



2 スキルアップの段階 (読解・コミュニケーション) (第二次)



3 読書サークルの段階(第三次)

- 第1ステージ「ショートショートを選定」
- 第2ステージ「ショートショート分析」
- 第3ステージ「広告文をつくる」

社会生活に生きる読解力(私案)

ア テキストの内容を正しく読み取るだけでなく、テキストに基づいて自分の考えを述べる力

イ テキストを評価しながら読む力

ウ テキストの表現の仕方に着目し、その効果を捉える力

エ テキストから読み取ったことを再構成する力

オ 文字媒体で表現されたテキストの他に、映像・図・グラフのようなテキストを対象に、アからエの読みを行う力

※テキスト＝読解の対象

2 社会生活に生きる「読みを分析する力」

国語の授業時間の減少に伴い、ワークシートを使ってテキストの内容を効率よく理解させてきた。そのため、内容は理解できたが「どのような読み方」を教えたのか、「どのような読解力がついたのか」を他のテキストや社会生活の中ではっきりとした形で応用・活用できなかった。

そこで、本実践では、「読みを分析する」ための基礎・基本となる「読解スキル」の習得と活用を通して、社会生活で活用される読みをタイプごとに分析・整理した。また、読みの交流を深めるためには、「読解スキル」での読み方の学習とともに、個人の読みを話し合いで表現し合う場が必要である。そこで、話し合いの基礎・基本となる「ディスカッションスキル」を設定した。この二つは、車の車輪のように補完し合って効果を発揮するものであると考える。

(3) 指導のポイント

① 単元への意欲を高める(第一次)

生徒自身が学習の目的や相手を明確にもてるように、学習の流れの図を示した手引き(資料1)を配布して説明を行った。その上で、以下のような意欲づけを行った。

- ・ 実の場で生きた(広告文が書店の店頭並ぶ)ことの説明。
- ・ 一人一冊ずつ、学校で購入したテキストを配布。
- ・ 書店の写真や実際の広告文の例示。
- ・ 読書サークルをイメージするためのモデルVTR

単元「本の魅力を伝える広告テキストをつくらう」学習の手引き
三年 組 番

ねらい
スキルアップシートを生かして、本の魅力を伝える広告テキストをつくらう

学習の流れ

こんなふうになってほしい

- ・ 本を選ぶときの手がかりを出し、
- ・ 本の内容や魅力を引き出す

自分の考えが深まった点

- ・ 帯やPOPなど、いろいろな宣伝のイロハがあるんだということ、どう見分けるかの大切、

本の魅力を効果的に紹介する工夫のアイデアを思いつく

本を読み取る「分析力」をつけるための「スキル」を習得する

読解スキルアップとコミュニケーションスキルの大切さを理解する。

8回のスキルアップで「主眼メロ」をいろいろな角度から分析することができる。

話し合いを通して、読みを深めたり広げたりすることができる。

読解・コミュニケーションスキルアップメニュー

1回	コミュニケーションスキル	ディスカッションの指針を立てよう
2回	読解スキル	タイトルの工夫を読み取ろう
3回	読解スキル	関係づけて意味をつくらう
4回	読解スキル	体験に照らして意味づけよう
5回	読解スキル	「落ち」の効果について考えよう
6回	読解スキル	文体的特徴から効果を見抜こう
7回	コミュニケーションスキル	アローアップの質問をしよう
8回	コミュニケーションスキル	深い反論をしよう

読解・コミュニケーションスキルを生かして、ショートショートを読み深める。

ジャンルの違うショートショートの本質を、読解・コミュニケーションスキルを生かして読み深めることができる。

読書サークルでの読み深め

ショートショートの魅力を生かして広告テキストをつくる。

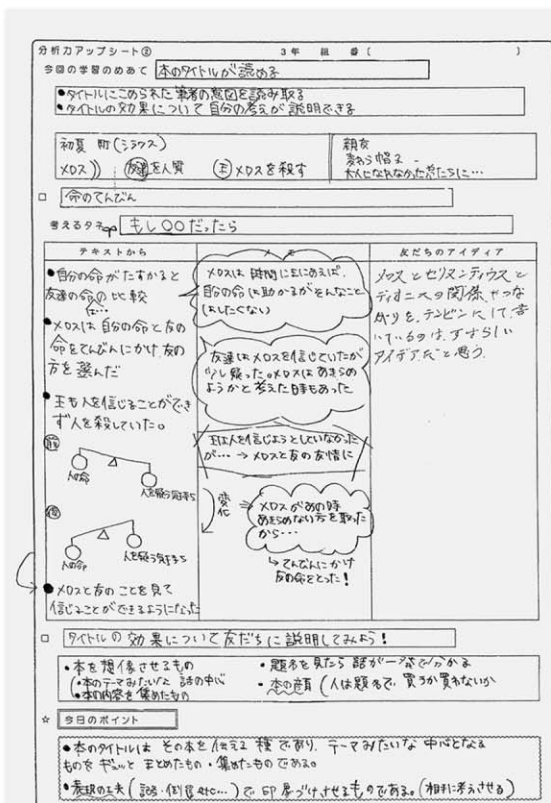
ショートショートの魅力を生かすような広告テキストを選び、よき読み手に正確に伝えることができる。

これはどのスキルで行ったか、また、読みが深まったか、分析し、読みが深まったか、見方が変わったか。

ジャンルで分けて、自分の「行きたい本」をリストアップし、友達や先生にアドバイスをもらう。

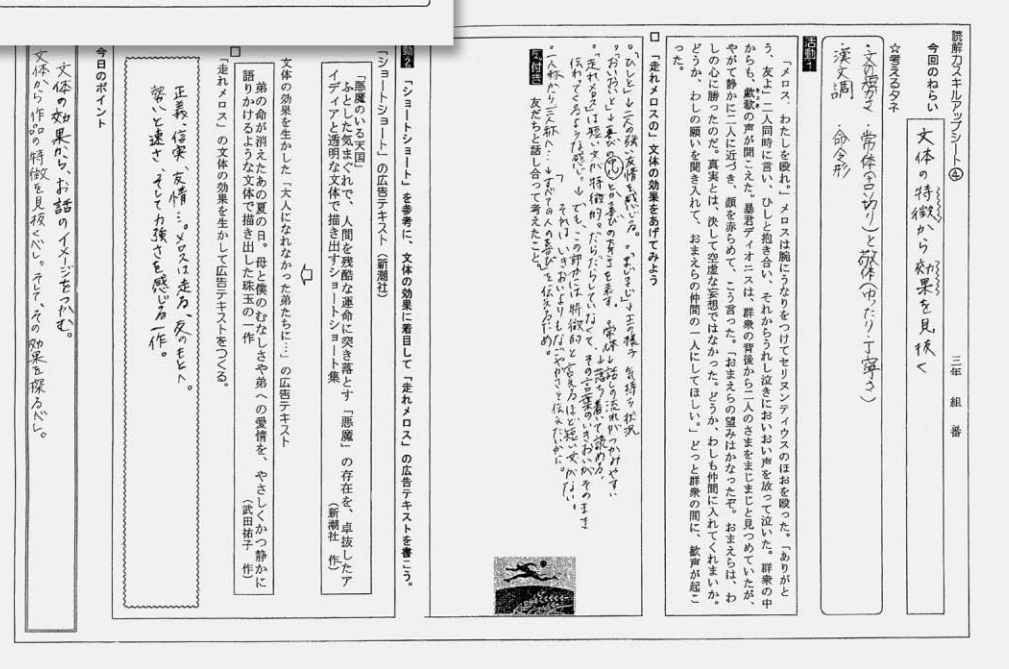
【資料1】学習の手引き

【資料3】「タイトルを読み解く」



【資料2】本単元でのスキルアップメニュー

毎時間の読解スキルアップ	
A〔目的に応じて必要な情報を取り出す〕 2 関係つけて情報をとらえる。	2 関係つけて情報をとらえる。
B〔情報提示の効果を意識する〕 1 言葉からイメージを広げる。 2 テクストの特長に気づく。	〔第1回〕 ・タイトルの工夫を読み取るう 〔第5回〕 ・文体の特長から効果を見抜こう
D〔情報を吟味する〕 1 情報を自分の知識や経験と結びつけて判断する 2 筆者がテキストを書いたねらいや、読者に対する態度を考える。	〔第2回〕 ・関係つけて意識をつくらう 〔第3回〕 ・体験に照らして意味づけよう 〔第4回〕 ・『落ち』の効果について考えよう



【資料4】「文体の特長をつかむ」

a. コミュニケーションスキルの学習—ディスカッションの指針を立てる

ここでのねらいは、相互交流の中で読むことのよさを実感させることにある。そのために、「どのような話し合いがよいのか」を学級の実態に合わせて考える活動を設定した。その上で、コミュニケーションスキルとして、教師が課題を含んだシナリオを配布し、実演しながら様子を再現した。生徒は気づいたことを自由に書き込んでいった。

その後、どんな問題点があるのかを意見交流させたが、日頃の話し合いと結びつけながら、「割り込み」「ぼんやりさん」「とびきりの無礼者」など、それぞれの課題に合わせてネーミングをつけ、楽しく考えることができた。

b. 読解スキルの学習

読みの分析方法を習得するために、P25資料2にあるような5回の読解スキルを設定した。テキストには、既習の『走れメロス』（二年）を用いた。ここでは、第1回「タイトルの工夫を読み取ろう」と第5回「文体の特長から効果を見抜こう」での実践を取り上げる。

○「タイトルの工夫を読み取ろう」

めあてを「本のタイトルが読める」とし、①タイトルに込められた筆者の意図を読み取る。②タイトルの効果について自分の考えが説明できる。とした。その際、『走れメロス』が「もし、○○だったら」と問いかけて自分たちでタイトルを考えさせ、『太人になれなかった弟たちに…』『麦わら帽子』など挙げながら、

4 成果と展望

作者の意図や登場人物、場面などを意識してタイトルがつけられていることに気づかせた。(P 25資料3)

○「文体の特長から効果を見抜こう」

文体の特長が生み出す効果を、『走れメロス』からつかむことをねらいとした。そのために、『走れメロス』と『大人になれなかった弟たちに』の二つを読み比べながら、常体による文の短さ・「ならぬ」のような漢文調・「走れ」に象徴される命令形などの効果を考えさせた。(P 25資料4)

次に、文体の特長から生まれる効果を、読解スキルアップシートにまとめさせ、グループ内で意見交流させた。バズセツシヨンの形をとり、快く言い争う・賛成できない理由を相手の立場を意識して述べるなど、デイスカツシヨンスキルを生かして話し合わせた。

○「文体の特長から効果を見抜こう」

文体の特長が生み出す効果を、『走れメロス』からつかむことをねらいとした。そのために、『走れメロス』と『大人になれなかった弟たちに…』の二つを読み比べながら、常体による文の短さ・「ならぬ」のような漢文調・「走れ」に象徴される命令形などの効果を考えさせた。(P25資料4)

次に、文体の特長から生まれる効果を、読解スキルアップ

シートにまとめさせ、グループ内で意見交流させた。バズセツシヨンの形をとり、快く言い争う・賛成できない理由を相手の立場を意識して述べるなど、デイスカツシヨンスキルを生かして話し合わせた。

二つのスキルを設定したことは、テキストに必要な読解スキルを読み解いたり、コミュニケーションスキルを生かして作品について深く語り合うことにつながったと考える。その結果として、「広告」に必要なスキルを自らが選定し、書籍の広告文を制作することにつながった。なお、生徒が作った広告文は、昨夏、POPやポスターとして、実際に書店の店頭に並んだ。

〔注1〕 国立教育政策研究所編「生きるための知識と技能」
「生きるための知識と技能2」

(注2) 福岡教育大学附属福岡中学校「平成18年度研究紀要」